# 時事新報

## 日秘鑛業會社の失敗

昨年十月の事なり南米秘露の奇商某氏一人にして五十萬圓を出し日本の紳士紳商等凡そ十數名にして又五十萬圓を投じ都合百萬圓の資本を以て日秘鑛業會社なる者を起さんとするの計畫あり事の縁起は日本の或る鑛山學士が近年秘露內地に入りて同地の銀鑛を撿分し其採掘上に就き右の奇商某氏と深く協議する所あり其鑛石を齎らし歸りて之を分析試驗せしに百分中二十六の銀分を含むものもありて愈々採掘に着手せば資本百萬圓に對する利益金凡そ九十餘萬圓にして役員賞與金幷に準備金を引き去るも尙八十餘萬圓の純益に相當すと云ふに在る由、我輩は當時斯の風聞を耳にして不審に堪へず鑛山學士が專門の眼にて十分觀察したる者ありとあれば銀鑛の性質幷に之を採掘し之を精製運送する手續等萬端迂濶の談なかる可しとは思はるれども其豫算の割合に於て純益八九割とは果して如何、企業に勇敢なる歐米人が斯かる大利ある鑛山業を今の今まで見出さゞりしは如何、特に奇商某氏は身秘露國に住居して此銀鑛業を起すに就ては一手に全資本の半額を引受け五十萬圓を出すの力ありと云ひながら此異常の利益ある事業を今日只今まで看過して曾て自から着手せざりしは如何、眞實信用ある商人が眞實利益ある事業を起して共に利を語らんとすれば僅々五十萬圓の金額、歐米諸資本家の其中には即席に相談に應じて其出金を諾するものもある可きに然るにワザ〳〵日本人に謀りて資本を得んとするは是れ亦如何、我輩は鑛山業などに不案內なる者なれども人間通俗心に訴へて苟も許す可らざるものあれば爲めに一片の諷言を呈して企業當局者の猛省を斷りたるとありしが爾後當局者は技師を隨へ又數十名の坑夫を率ゐて遂に秘露國に出張し既に數萬圓を投じて其坑區を買入れたる由なれども愈々採掘の段に至りて當初の目的果して齟齬し折角買入れたる坑區さへ今は無代價にて拋棄するの外なく企業以來今日に至る諸般の雜費を合算すれば同社株主の損失は凡そ十八九萬圓に上る可しと云ふ今日本國經濟の上より云へば此十八九萬圓金は幾多の人の勞力と合せて之を水中に投じたるに等しく又企業當局者の私より云へば目下金融必迫の際、銘々の出費を分擔して自から其膏血を絞るに等しく公私兩樣より考へて唯氣の毒と申すの外なきなり蓋し人智は明あるに似て至て暗く況して營利の事に蔽はれ空中金殿を朦朧の間に出現するに至りては意馬心猿走て之れに近かんとして遂に自から顚覆するの例は此濁間しき人間界に毎度有り勝ちの事のみならず特に彼の鑛山事業の如き俗に所謂山仕事にして當るも八卦、當らぬも八卦、初めより事の萬全を期す可らず左れば彼の秘露鑛業會社が物の見事に失敗したるも企業易斷の當て違ひにして必ずしも深く咎むるに足らず現に西洋諸國にても今を去ると數十年前ずウスシーボップル(南洋泡沫事業)とて水の泡の如き跡方もなき事業に多くの金を熱注して手を燒きたる者少なからず又近くは兩三年前、米國紐育府に電氣砂糖精製會社なる者を起し秘密室にて角砂糖を碎き電氣の働にて斯かる夏砂糖を生ずるなりとて遂に百萬弗の株金を募り之を持逃げしたる者もあり凡そ此種の珍奇なる詐欺は文明國人の間にも亦た時に出現することあるが故に日秘鑛業會社に就ても事後の成敗を以て徒に嗤罵の評を下すは我輩の好まざる所なれども我輩一片の通俗心は之れを事前に疑ふて當局者の注意を促したるに日本の紳士紳商として云はゞ人の上に立ち事業の重きに任ずる者が看す〳〵之れに手を出して十八九萬圓金を失ひたる其金は輕小なりとするも此一事、西洋諸國人より我腕前を見すかされ一場の滑稽茶話として其冷笑を買ふに至る是れぞ正しく一種の國辱、唯不面目と云ふの外なかる可し然りと雖ども又一方より考ふるに彼の日秘鑛業會社が僅々十八九萬圓の損毛にて物の見事に失敗したるは漫然たる我事業家に向て實に頂門の一針たる可く若しも然らず彼の會社が一時の奇福を攫み得て豫算通り年益八九割を占むること能はざるも當座二三割の利益を見ることもあらば利に當て通俗心を失ひ易き今の滔々たる紳士紳商、爭ふて奇利を南米邊に求め空中金殿を天外に畫きて其想像を實にせんと段々資本を輸出したる處にて金殿は何時か其影を失ひ失望又失望、人を誤り己れを誤り結局其損失の今日に幾倍することあるやも知る可らず此一點より云ふときは今度日秘鑛業會社の脆くも早く失敗したるは所謂不幸中の幸にして此一事大に我事業家を警醒し人間利外の利あるを信ぜしめざるに至らんか、過ぎたる者は咎む可らず唯來者を戒む可きのみ我輩の敢て一言する所以のものなり

## 雜報

○旗艦の交代　横須賀鎭守府所轄なる常備小艦隊浪速高千穗、扶桑、葛城、大和、高雄の六艦は是迄高千穗が旗艦ありしが同役務を解き浪速を以て旗艦と定むる旨此程樺山海軍大臣より部內一般へ達したりと

○長野縣下の候補者　長野縣下七區十六郡內の衆議院議員候補者として世間に知られたる人々は左の如くにして共運動に關する模樣を左に記さん

第一區(上水內、更級の二郡)

小坂善之助(氏は資產家中に勢力あり少壯者の間には餘り評判なき樣子なれども擁護人の氏に望を屬するもの頗る多し)

小林誓智(氏は小坂氏に亞いで勢力あり其執る所は中立主義と稱すれども改進に近しとの評あり自由大同派員の中には氏を好まざるもののあるが如し)

瀧澤助三郎(氏は大同派中に勢力あれども擁護に關する運動差程活潑ならず)

矢嶋浦太郎(氏は才子の聞えあるだけ共運動中々活潑にして少壯者間に最も評判あれども擁護人との關柄は如何にや局外より判じがたし)

右の內小坂氏の勢力他に比して稍や優りたる模樣あれども若し少しにても其運動を怠らば矢嶋小林の兩氏に凌駕せらるゝ勢あり今後の成行如何に變ずるや未だ容易に知るべからず

第二區(下水內、上高井、下高井の三郡)

嶋津忠貞(氏は久しく縣會議長たりし上に從來自由黨の爲めに盡力する所ありしかば其派の人々より最も多く望を屬せらる勢力他に劣らざる方なり)

丸山名政(氏の根據は下高井郡にして改進派中而も重きを置れたるゆゑ今度の運動に際し其郡下に立働くもの亦少からず)

中村三折(氏も亦下高井郡を以て本城となし大同派中勢力あれども今度の運動餘り活潑ならずして二敵の領地に侵入せず)

三氏恰かも鼎峙の勢を爲せども競爭の最も劇しきは丸山嶋津の二氏なり最初嶋津氏は林包明、鈴木治三郎二氏の援助を請ひ巡廻演說を試み丸山氏の領分へも侵入せし處丸山氏も亦東京より嶋田三郎氏を招きて其力を藉り巡廻演說を始め目下嚴正に鬩ぎあるが此區は雙方とも公明正大なる競爭をなし苟も卑劣の手段を施すことなきのみならず改進、自由兩黨の決戰ゆゑ一般に共勝敗如何を注目するもの〻如し

第三區(小縣、埴科の二郡)

佐藤八郎右衞門(氏は實業家の團體公友會より推されて候補者となり殊に爲けれども初め中立主義を稱し中頃より自由主義を發表せしかば少壯者中彼れ此非難するものありと云ふ)

南條吉左衞門(氏は改進主義を執り已丑俱樂部員の六七分に推されて候補者の地に立ち油斷なく運動するを以て勢力相應にあれども同黨中吉田三郎、杉浦春三郎の二氏を敵とし一面は外敵に當り一面は此內憂を防がざるべからざるを以て隨分困難なりと云ふべし)

堀內賢郞(氏は埴科俱樂部の推選に依り競爭場裏に旗を立てしが輓て縣の如く同俱樂部の一致中々強く以て敵の侵入を防ぐと同時に動もすれば其餘勢を驅りて小縣郡に侵入せんとするの勢あり)

岩間範造(氏は中信俱樂部を後楯となし運動頗る活潑なる上に愛氏と云へる郷縣雜誌を發行するを以て勢力強く少壯者の氣に叶へども資產家には左程頂きを置かれざるが如し)

四氏共に一個の團體を後楯となし居ることゆゑ根強き所あり勝敗の程未だ容易に判定すべからず而して各自の振舞も活潑ならざるにあらずと雖も割合に表面の運動少きは聊か遺憾の念なき能はず

第四區(東西筑摩、南北安曇の四郡)

上條謹一郎(氏は貴族院議員互選の際山田氏の次點にて敗を取りしかば僅かに手網を返して衆議院議員の競爭場裏に驅け入りしが新參なればにや勢力未だ熾んならず)

小木曾庄吉(氏は終始改進主義を執り其節を變ぜざるゆゑ敬服するもの少からずと雖も常に長野に住するを以て運動充分ならざるものあり)

小里頼永(氏は久しく縣會常置委員たりしを以て議會の經驗に富み分縣請願等に盡力する所少からずとて人望あれども過般來上京し居たるゆゑ目覺しき運動なし)

江橋厚(氏は常に松本に住ひ小木曾小里の二氏に比すれば運動に油斷なきもの〻如し)

關口友愛(氏は現に郡長の職に在れども議員當撰のときは辭職する覺悟にて計畫せるが表面は格別にあらずと雖も內實可なりの勢力あり)

此區は七區中境域最も廣く被撰定數も二名あるにぞ右五氏の外にも自稱候補者少からざる有樣にて何人の勝利となるべきは別して判斷しがたし

第五區(南北佐久の二郡)

小山久之助(氏は自由主義を執り小諸地方に於て最も勢力あり)

立川雲平(氏は東信友誼會より推されたる故岩村田地方に於て勢力あり)

箕輪鼎(氏は郡長の職に在りて競爭せしかど有志者の希望に依り出裕に至り其職を辭したり併かし公然意見を發表せざる故少壯者の氣受は宜しからざるが如し)

此區は各自表面の運動を試み其勢力目下互角の姿なり

第六區(上伊那、諏訪の二郡)

中村彌六(氏は上伊那俱樂部の撰定に依りて候補者となりしかど其政策の如きは未だ知るべからざるゆゑ多少其點に向て議論を挾むものあり)

北村英一郎(氏の勢力も中々强大なれども中村氏には稍や劣るが如し去りながら今後の運動如何に依りて中村氏を凌ぐことも出來るべし)

金井汲治(氏は諏訪同好會の推撰に係り諏訪郡內だけの人望は蓋し第一なるべし)

當區の競爭は中村氏の勝利に歸すべしとの風說多けれども是れ亦容易に信じがたし

第七區(下伊那)

皆川四郎(氏は信民會の撰定に依りて候補者となり自由主義の黨員中に多し)

松尾千振(氏も亦勢力あり併し分縣論を唱へしとて一部の人氏に容れられぬ姿あるが如し)

伊藤大八(氏は改進主義の同志會員にして其仲間の人々に評判可なり)

當區に於る競爭の結果は松尾氏の勝利に歸するならんとの評判あれども皆川氏の勢力も亦侮るべからざるに付き未だ妄に卜定すべからず

○農商務省各局部の氣風　我政府各省局の事情は各々特別の異例ありて未だ必ずしも一樣ならずと雖も要するに一省は一省一局は一局各々一定の毛色ありて事務の取扱は勿論、役所に於ける官吏の行爲は自から相一致し居るを認むるものなるに農商務省に限りては一種出色の氣風各局各部に行はれ甲は西に乙は東にと云ふが如く實めて言へば夫れ〳〵の氣韻ありとも云ふ可けれど惡しく評すれば殆んど秩序なしと評するの外ある可らず一例を擧ぐれば各省局各官吏の俸給の如きは其省、其局從來一定の仕來りあり總めて各員に渡す都合のもの多きよしなるに農商務省の官吏は一人〳〵

思ひ〳〵に……
他省局の官……
らず他の省……
結果は直ち……
の一般あれ……
泊なるが如……
繁にして其……
務に全省の……
るに至りた……
語れり事實……

○軍艦磐城……
第二百二十……

○皇太子殿下……
氏が青山花御……
親王殿下近衞……
ひたる御寫眞……
一萬枚を御注……
中にて出來の……
の諸官衙諸學……

○司法大臣の……
及び抵當品に……
の移りたる節……
しめる筈なん……
樣の場合に於……
かしむる事と……
訓したりと

○五十嵐秀助……
の爲め昨年米……
始とし電氣鐵……
調べて此程歸……
業は何事に拘……
ると多し例へ……
國式を取り電……
用し又電線架……
之か爲め費用……
なければ足れ……
に使用せる電……
り通じたる電……
じて技術者が……
を省き技術者……
書止る次第な……
あらず音響に……
代價も安直な……
ば殆んど三分……
は都合六百個……
とせば莫大の……
るときは其三……
電信器械を悉……
あるべしと

○藤田茨城縣……
谷區御徒町三……

○圖書記官……
晋氏は一昨日出……

○交際費は下……
らざるにも拘……
院の顧官は其……
が固と同顧官……